

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

新入学説明会 & 三年進学説明会

黒川小、波多津小の六年生と保護者さんを迎えての新入学説明会が一日開かれました。緊張し自己紹介もせずに話し始めてしまいました。少しの不安と、大きな期待を含めた眼差しに見つめられながら、児童たちには中学校は大人になる準備をする三年間、保護者さんには子供から手を離していく三年間であるという話をしました。その後は用品の申し込みや、部活動の体験・見学を元氣に行いました。新しい青嶺中生徒としての入学を心待ちにしています。また、同じ日に進学説明会も開催されました。今年度の高校入試制度などの説明でした。我々の世代は子どもの数が多く、受験競争と言われています。特に大学入試の倍率は学校によって

十倍強と競争にさらされてきた世代です。子どもの数が少なくなり社会情勢は厳しく、様々な情報があふれて何を信じるべきか難しい時代になりました。一つの価値観に沿って頑張れば結果が出ると信じていた昔の方が、あるいは良かったのかもしれない。高校の校長先生方と話す機会があり、服装や頭髪、眉などについてどのような指導をされているか、直接お話を伺いましたところ、髪型規制は生徒たちで話し合いをもって決定した高校、月一回の検査をして不適切と判断したら家庭連絡し、手直しをお願いする高校、守れないなら退学もやむなしという高校と、テレビ等での報道よりずっと現実的な対応をされていました。就職試験では「総合的に見て」採用を見送られるそう

「七年振りの再会」

かつての同僚と飲んでいた時にラインが届き、何気なく見てみると…東京で働いている今年三十歳になる息子が帰ってきていて、今夜泊まるという内容でした。びつくりして自宅まで走って帰りました。七年振りに会う息子は、相変わらずのマイペースでした。仕事や健康のことなど、直接話をして安心したことも、また新たに心配になったこともありましたが、久しぶりの家族四人の時間は楽しく、懐かしかったです。彼の間には過ぎました。彼の誕生が私を教職に導き、無職時代に一緒にいた思い出が、私の人生を豊かにしてくれています。子どもの成長に二年間も向き合ってた家族の形を築いていった時間でもありました。学校で子どもたちをみて、その後ろには大切に育ててくれた保護者の皆さんの思いを感じ取ります。親はいつになっても、どんなに子どもが成長しても、心配は尽きませんし、世話を焼きたくなります。子育てを通じて親になれたのだと思います。学校での仕事は子育てそのものだと感じます。子どもと関わり最後には自立できるように育んでいく。その力を、関わった時間でどうつづけるかを常に考えています。自分の未来を切り開き、人生を逞しく歩んでいく、そんな子どもたちを共に育てていきましょう。

サザンクロスノート

クリスマスにエアーズロックに集まり、初日の出は頂上から見よう！という風の便りに旅人たちがユララキャンプ場を目指しました。ドイツ人やフランス人の旅人たちと共に盛大に盛り上がった一週間でした。ある旅人から一冊の分厚いノートを手渡されました。題名は「サザンクロスノート」時には星の下で寝る。最初の書き込みは四年ほど前で、最後のページに「このノートが全部埋まったら、日本に持って帰ってきて発起人に送ってください。そしてもう一度集まって酒を飲もう！」とのメッセージがありました。読み進めていくと、様々なメッセージや詩や思いが綴られていて読みふけりました。一言書き込んで、次の旅人に渡しました。それから二年、発起人から長野県大鹿村で集まるぞ！という檄文（げきご）が届きました。全国から百五十人を超えるソロライダーが集まり、旧交を温めました。当時社会人一年目で千葉県に住んでいた私もバイクを走らせ、懐かしい仲間達と再会しました。旅するノートが旅を終えて誰かの手によって戻ってくる。その過程では何十人もの手

校長室より

急に気温が下がり、一気に冬が来しました。ある日の朝、あまりに寒そうだったのでしようか、「校長先生、無理せずに」「大丈夫ですか？」と優しい言葉をたくさんもらいました。今日はマフラー手袋まで完全装備で立っていたら、「今日は大丈夫ですね！」と。ちょっととしたやりとりですが、気持ちも温かくほっこりとした一日の始まりとなりました。優しい子供たちに感謝です！

ある日のお話どんぐりさんの読み語り。子どもたちは背筋を伸ばして朗読に耳を傾け「物語の世界」に浸りきっています。朝からしつとりと豊かな時間を設けていただきました。子どもたちを感性豊かに育てる素敵な時間です。本当にありがとうございます。